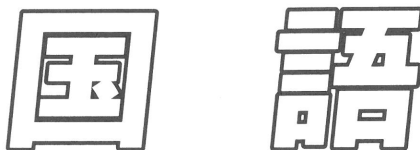


# 2025年度 入学試験問題



H T J (後期 A 適性検査型)

(50 分)

## 注 意

- ① 問題は、中の用紙のA面に㊦、B面に㊧、C・D面に㊨があります。
- ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
- ③ 解答用紙には受験番号・氏名を必ず書いてください。
- ④ 答えはすべて解答用紙に書いてください。
  - ・ 答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて解答用紙の記号を○で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消してください。
  - ・ 答えの字数が指定されている問題は句読点、記号（、。」「・）なども一字に数えます。
- ⑤ 試験開始の合図があったら、全てのページが揃っているかを確認してください。

【解答例】

ア

イ

ウ

エ

## 一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

さて、鳥の地鳴き（ウグイスの場合は笛鳴き）の意味はなんでしょう。

その多くには、仲間同士の存在確認の意味があると思います。

とくに、葉の茂った森のなかでは姿が見えないので、鳴き声による通信が重要なシユダンとなります。ヒトゴみのなか携帯電話で

「今どこ」「私はここよ」と話しているようなものです。仲間の声が聞こえることで、安心感を得られます。

ウグイスの笛鳴きにも、同じような意味があると思います。同時に、自分の領域にほかのウグイスが入って来ないよう自己主張する意味もあると思っています。以下、それについて説明していきます。

地鳴きのもうひとつの意味を考えると関係するのが、その鳥の食べ物です。ここで、鳥の食べ物と行動の関係を見てみましょう。

スズメやムクドリのように冬になると群れる鳥の多くは、冬はおもに木の実や草の実を食べる鳥たちです。アトリのような鳥は数万という大群になり、いっせいに飛ぶ姿はまるで雲のように見えます。群れで暮らすことには利点があります。たとえば植物の実であれば、たくさんある場所を仲間が見つけてくれれば食べ物を得ることができます。もし食べ物をめぐる競争が起きても、見つけてもらうことのほうがありがたいのです。また、群れることで目が増えてテンテキから逃げやすくなるなど、いろいろなメリットがあります。

しかし、食べ物が動物だと獲物が少ないため、群れだと仲間との

競争が起きて効率が悪いのです。だから、動物食であるモズの群れは見たことがあります。渡りのときにたまたま群れ状態になるサシバというタカがいますが、猛禽類も基本的に群れは作りません。動物食の鳥は、群れることがないのです。〔あ〕

ウグイスはおもに昆虫を食べます。つまり動物食で、基本的には群れを作りません。渡りのときに10羽程度の群れ状態になるのを見たことがあります。越冬地に着いたらバラバラになり単独で暮らしています。〔い〕

単独行動なので、笛鳴きをするときは仲間同士の存在確認の意味は薄いでしょう。どちらかというと「ここは俺の土地だから入ってくるな」という意味のほうが強いと思っています。

以前、藪のなかで、笛鳴きで鳴き合っているウグイス2羽に出会ったことがあります。さかんに鳴いて、威嚇をしているのではないかと思うほどでした。しばらくすると1羽が鳴きやみ、ササがゆれて離れて行きました。もう1羽は勝ち誇ったように鳴き続け、存在を誇示しているかのようでした。〔う〕

ウグイスの笛鳴きは「少ない昆虫を確保するために、ほかのウグイスを遠ざけようと自己主張する鳴き方」ではないかと考えています。

繁殖期である夏に笛鳴きを聞くことは、まれです。

私は春から夏にウグイスのさえずりを山ほど録音していますが、笛鳴きを聞いたのはわずか1度。2015年6月29日に日光の戦場ヶ原で録音したときだけです。时期的に、繁殖期中盤から後半でしょう。5mほど離れた藪で鳴いていたのですが、冬と比べて声

が小さく聞こえました。「え」

このときは一瞬姿が見えてウグイスであると確認できましたが、オス・メスのちがいである大きさを判断するほどじっくり見られませんでした。

(松田道生『鳥はなぜ鳴く? ホーホケキヨの科学』による)

\* 笛鳴き || 鳥が出さえずり以外の鳴き声。

\* 猛禽類 || 鋭い爪とくちばしを持ち、他の動物を捕食する習性のある鳥類の総称。

1 本文中の~~~~線部 a ~ c のカタカナを文脈に合わせて漢字に直し、解答欄の枠内に大きくていねいに書きなさい。

2 次のア ~ エのうち、本文中の——線部 ① と熟語の構成(成り立ち)が同じ言葉の一つを選び、記号を○で囲みなさい。

ア 着席    イ 強弱    ウ 人造    エ 解放

3 本文中に——線部 ② とありますが、食べ物についてのメリットについて説明した次の文の [A]、[B] に入る内容を、本文中の言葉を使って書きなさい。ただし、[A] は八字以上、十五字以内、[B] は、十字以上、二十字以内で書くこと。

仲間との間で植物の実を [A] ことよりも、仲間が植物の実が [B] ことのほうがありがたいから。

4 次のア ~ エのうち、本文中の——線部 ③ の意味として最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア めったにないこと  
イ ひんぱんにあること  
ウ 絶対でないこと  
エ 時々あること

5 次の一文は本文中の「あ」 ~ 「え」のいずれかに入ります。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

近くに来たほかのウグイスを笛鳴きで追い払ったという印象でした。

6 鳥の食べ物と行動の関係について、筆者が述べている内容を次のようにまとめました。[A] ~ [C] に入る適切な言葉を、それぞれ本文中からぬき出しなさい。ただし、[A] は十六字、[B] は三字、[C] は十五字以上、二十字以内でぬき出すこと。

筆者は、食べるものによって、鳥が群れるか群れないかが決まるといふ考えを述べている。[A] スズメやムクドリのような鳥は冬になると群れる。一方で、ウグイスやタカのような [B] である鳥は [C] ので群れることはない。

## 二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人が動物の仲間だということを忘れがちな現代の日常ですが、人間は六十兆の細胞からできている生き物なのです。

他の動物たちと同じように自然の中で自然に生きていたのですが、① 智慧を授かったために自然を利用したり、都合のいいように人間用に様々作り変えてしまい、長い年月をかけて文明の発展と称して自然界の一員であることをまったく忘れてしまった暮らし方が優先している社会が今まさに存在しています。

その発展は全て経済活動の中で正当化されているので、自然の存在は後回しで② 便利さのためには自然の犠牲はやむをえないことになっています。

先日も蛍を見ようと山奥の清流に出かけていきますと、隣に立っ人すら見えない程の暗闇の中で光の乱舞が始まりました。

一定のリズムを持つ蛍の光は、低く高くあたりを照らし、その中で少しだけ周囲が確認できるのです。

闇のなかでは前にも後ろにも動くことができず、声だけが頼りでした。私たちには車があり、そこまで簡単に行くことができますが、驚いたのはその闇の中で鹿の親子を何組も見かけたことです。

人間も太古には光のない所で鹿のように目が見えていたのですから、**A** 人間はもともとの動物機能が低下してしまったのかを痛感するできごとでした。

もちろん、今でもそのような環境で暮らす人たちもいますから、訓練によっては **B** 機能の回復も可能だとは思いますが。

しかし、日常生活の中で本来持っている「五感を育てる」ということを決して諦めてはいけなと思います。

四季の気候の変化に伴い、自然の感じ方はそれぞれ違います。冬の寒さ、吐く息の白さ、指先に温かい息を吹きかけながら、かじかむ手を守った日々、木枯らしに襟を立てて身をちぢめて歩いた

学校通い、寒い冬を寒さと向かい合うことで身体はすっかり冬を知りました。

雪解けから始まった春の息吹も、毎日の風の流れから、また芽吹きか、様々な自然の姿から、暖かさが近くまで来ていることを知りました。

梅雨の湿度の高い中で、植物たちが喜んでるのが花の色や生長具合で分かり、雨も大事なのだと思います。

太陽が照りつける夏の暑さも木陰の風が汗をぬぐってくれる心地よさを教えてくれ、朝顔の花や風鈴の音色が **C** 演出を高め暑さを楽しむことを覚えます。

涼風が立つと、頑張った夏にお別れの時が来たとも身体もほっと安心します。過ごしやすい秋の夜長は月の明かりを何時までも楽しみながら虫の声に耳を傾けます。こうして四季の移り変わりを③ 知ることができた時代には、身体がそれらをみんな吸収して五感が覚えてくれていましたから寒さにも暑さにも対応できていました。

しかし、現代は冬には暖房、夏には冷房といった、自然の厳しさを文明の機器のお陰で和らげてしまいましたから、身体はいつも自然のままであることを嫌うようになりました。

そのうえ、子供たちは家の中に閉じこもってテレビやパソコンゲ

ームに夢中ですから、季節や自然を体感しないまま、育っているのです。

(中川<sup>なかがわ</sup><sup>よし</sup>美 『ちよつと前の日本の暮らし』による)

1 次のア～エのうち、本文中の [A]～[C] に入れる言葉として最も適しているものを、それぞれ一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア さらに      イ きつと      ウ まさに      エ いか

2 次のア～エのうち、本文中の——線部①の主語として最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 自然を      イ 一員で  
ウ 暮らし方が      エ 社会が

3 次のア～エのうち、本文中の——線部②の意味として最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 生活を便利にするために、自然をできるだけあるがままに活用する。

イ 経済を発展させて住みよい社会をつくるために自然をかえりまない。

ウ 自然と経済の関わりをしつかりと研究して、自然を大切にしながら発展する。

エ 自然が破壊<sup>は</sup>か<sup>く</sup>されているという事実を認識して、経済の発展にストップをかける。

4 本文中の——線部③とほぼ同じ意味を表す言葉を、本文中から八字でぬき出して書きなさい。

5 次のア～エのうち、本文中で述べられている内容と合うものを選び、記号を○で囲みなさい。

ア 筆者が山奥の清流に蛍を見るために出かけたとき、蛍の光を頼って歩いている鹿の親子を何組も見つめた。

イ 筆者は、現代の人々が季節ごとの自然を体感することで、人間本来の「五感」を回復させてほしいと思っている。

ウ 筆者は、現在、世界中のすべての人間が動物機能を低下させるような環境の中で暮らしていると考えている。

エ 筆者は自然の厳しさを和らげてくれる文明の機器をありがたものだと考え、積極的に使うべきだと考えている。

オ 筆者は現代の子供たちが外に出ないで、季節や自然を身体で感じないまま育っていることを心配している。

## 三

佐藤さんは、学級で「言葉の使い方」についてのスピーチをする  
ことになりました。次の【発表原稿の下書き】を読んで、あとの問  
いに答えなさい。

## 【発表原稿の下書き】

この前、社会の授業で、情報通信について学習し、インターネット  
トを使って情報を発信するときには、「人を傷つけるようなことや  
悪口は書かない」ようにすることが大切であることを知りました。  
そのことから、私は日ごろの生活の中での言葉の使い方に興味を持  
ちました。そして、毎年文化庁が行っている「国語に関する世論調  
査」という調査の報告書を見つけました。その中に「言葉の使い方」  
に関するアンケートの結果がありました。

【資料1】は、言葉や言葉の使い方について、自分自身に、どのよ  
うな課題があるかという質問への回答結果です。「改まった場で、  
ふさわしい言葉遣いできないことが多い」という課題を持つてい  
る人が最も多いようです。改まった場というのは、会社や地域の自  
治会での「あ」の場合などのことで、そのときに適切な言葉遣いで、  
自分の意見を述べるのができない人が多いのでしょうか。

また冠婚葬祭の集まりの場もそれに入るのでと思います。「敬語  
を適切に使えない」ということを課題だと考えている人も多いよう  
です。敬語には、尊敬語、けんじょう語、ていねい語の三つの種類  
があり、正確に使い分けることは困難です。例えば、「言う」という  
言葉は尊敬語で「(A)」、「けんじょう語では「(B)」と使い

分けます。私自身もしっかりと使い分けられないことがあり、課題  
の一つです。

【資料2】は、言葉を使うときに気を使っていることは何かという  
質問への回答結果です。ここでも改まった場での言葉遣いに気を使  
っている人が最も多い割合になっています。

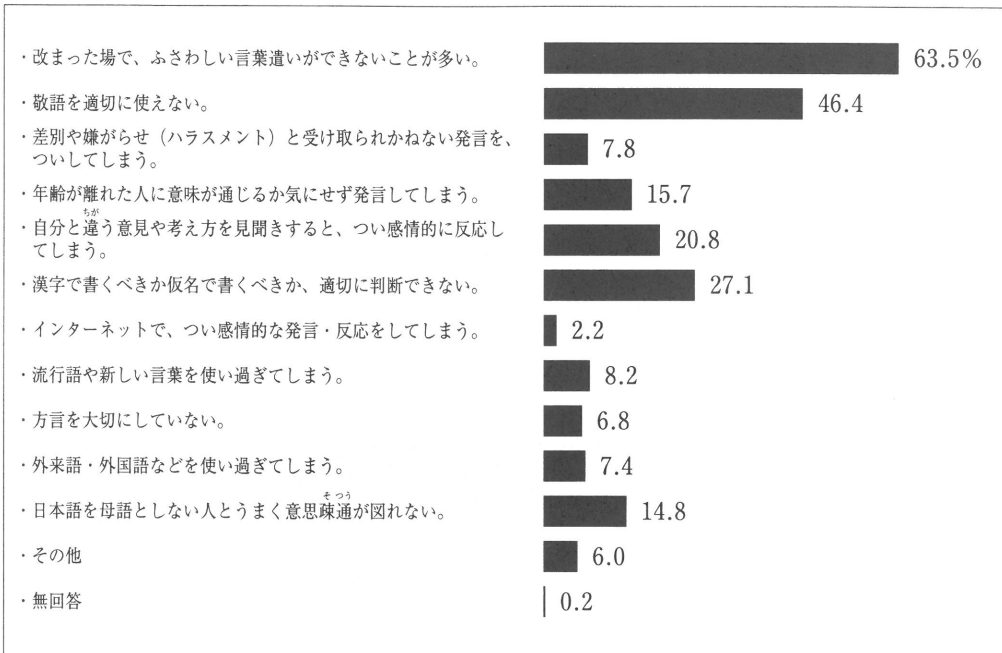
【資料1】と【資料2】を比べてみると、気を使っている効果が最  
も出ているのが、「い」ということがわかります。これは  
良い人間関係をつくるうえでもとても大切なことだと思います。

最後に、【資料3】と【資料4】を見てください。これは言葉を使  
うときに気を使っていることは何かと言う質問への回答結果を年齢  
別に示したものです。

う。また、「流行語や新しい言葉を使い過ぎない」とい  
う項目は全体的に割合が低く、これも年齢別に大きな差はみられま  
せん。これらに対して、「インターネットで、感情的な発言・反応を  
しない」という項目は年齢が高くなるにつれて、その割合が低くな  
っていき、16〜19才と70代以上とは約45%の差があります。その  
理由の一つとしては、年齢が高くなるにつれて、え」とい  
うことが考えられます。

これからの生活の中で、私はできるだけ正しい言葉遣いをしてい  
きたいと思います。

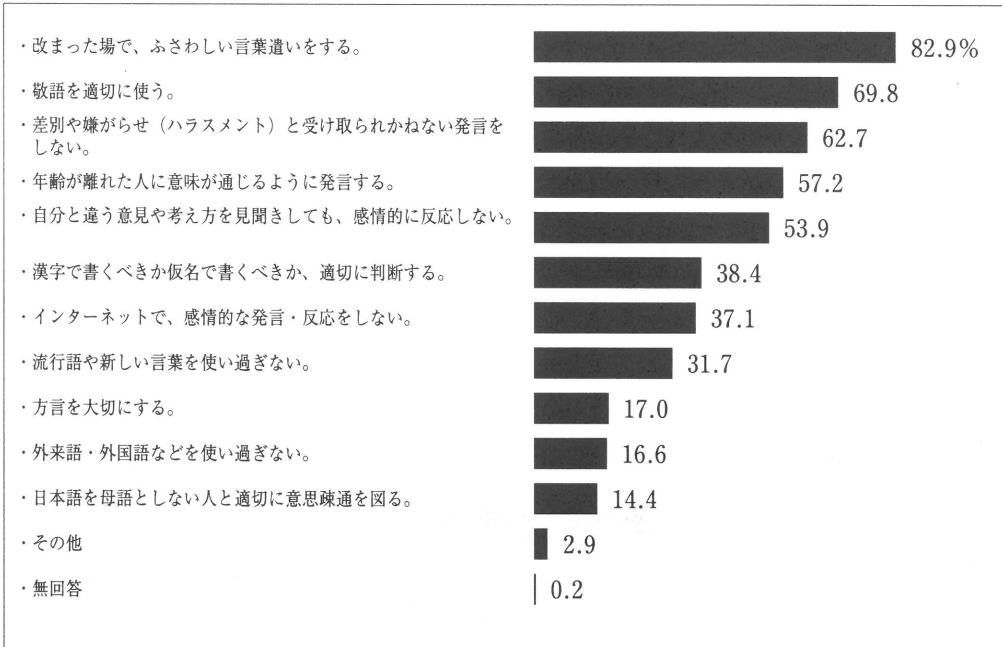
自分が持つ課題



【資料1】

（令和4年度「文化庁 国語に関する世論調査」より）

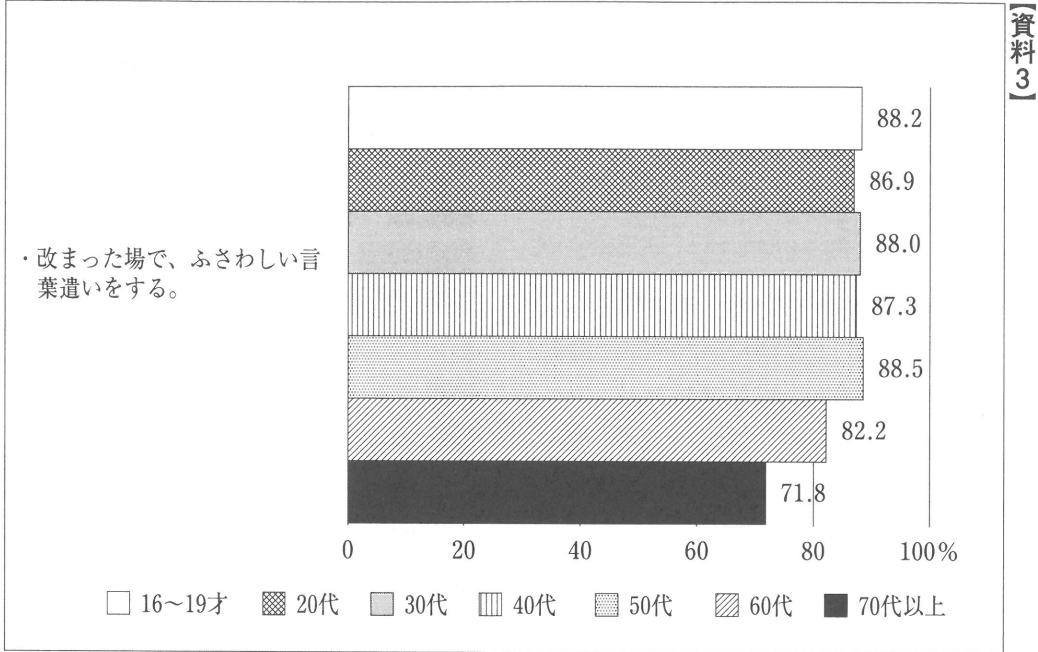
気を使っていること



【資料2】

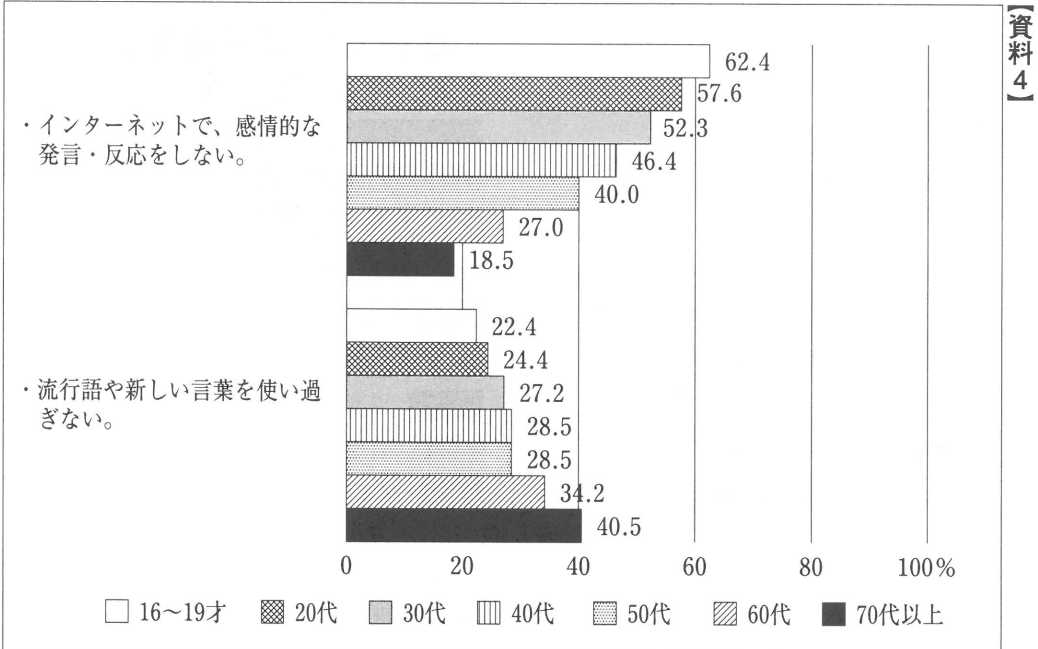
（令和4年度「文化庁 国語に関する世論調査」より）

気を使っていること①（年齢別）



(令和4年度「文化庁 国語に関する世論調査」より)

気を使っていること②（年齢別）



(令和4年度「文化庁 国語に関する世論調査」より)

1 【発表原稿の下書き】中の【あ】に入る言葉を考えて、漢字二字で書きなさい。

2 【発表原稿の下書き】中の（A）・（B）に入る言葉として最も適しているものを、次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 申す

イ いただく

ウ おっしゃる

エ いらっしゃる

3 【発表原稿の下書き】中の【い】に入れるのに最も適している項目を、前後の内容から考えて、【資料2】の項目の中からぬき出して書きなさい。

4 【発表原稿の下書き】中の【う】には【資料3】から読み取れる内容が入ります。その内容を、三十五字以上、五十字以内で書きなさい。

5 【発表原稿の下書き】中の【え】に入る内容を十二字以上、二十字以内で考えて書きなさい。ただし、「利用率」ということばを必ず使用すること。